	男　性	女　性	全　体
知らない	1622 (91.0)	1772 (88.5)	3397 (89.7)
知っている	4 (　.2)	2 (　.1)	6 (　.2)
無回答	16 (　.9)	15 (　.7)	31 (　.8)
回答非該当	141 (　7.9)	213 (10.6)	354 (　9.3)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表72　過去1年にﾍﾛｲﾝを使用した人を知っていますか？（%）

回答非該当：表69で「ヘロインという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
1～5人	1 (25.0)	2 (100.0)	3 (50.0)
6～10人	1 (25.0)	－　－	1 (16.7)
無回答	2 (50.0)	－　－	2 (33.3)
合計	4 (100.0)	2 (100.0)	6 (100.0)

表73　過去1年にﾍﾛｲﾝを使用した人を何人知っていますか？（%）

回答該当者･･･表72で「知っている」に回答した者

	男　性	女　性	全　体
な　い	1668 (93.6)	1814 (90.6)	3485 (92.0)
1年間より前にあった	5 (　.3)	1 (　.0)	6 (　.2)
1年間にあった	1 (　.1)	－　－	1 (　.0)
無回答	109 (　6.1)	187 (　9.3)	296 (　7.8)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表74　ﾍﾛｲﾝ使用に誘われたことがありますか？（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む

無回答者には、回答非該当者（表69で「ﾍﾛｲﾝと言う言葉を知らない」と回答したもの及び無回答者を含む

	男　性	女　性	全　体
な　い	1671 (93.7)	1809 (90.4)	3483 (91.9)
1年間より前にあった	2 (　.1)	－　－	2 (　.1)
1年間にあった	1 (　.1)	－　－	1 (　.0)
無回答	109 (　6.1)	193 (　9.6)	302 (　8.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表75　ヘロイン使用経験（%）　全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
以前より増えている	307 (17.2)	359 (17.9)	668 (17.6)
変わらない	153 (　8.6)	104 (　5.2)	257 (　6.8)
以前より減っている	23 (　1.3)	18 (　.9)	41 (　1.1)
わからない	1175 (65.9)	1304 (65.1)	2480 (65.5)
コカインという言葉を知らない	66 (　3.7)	131 (　6.5)	197 (　5.2)
無回答	59 (　3.3)	86 (　4.3)	145 (　3.8)
合　計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表76　コカイン使用人数の印象（%）　全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
知らない	1626 (91.2)	1762 (88.0)	3391 (89.5)
知っている	21 (1.2)	13 (.6)	34 (.9)
無回答	11 (.6)	10 (.5)	21 (.6)
回答非該当	125 (7.0)	217 (10.8)	342 (9.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表77　ｺｶｲﾝをこれまでに使用した人を知っていますか？（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む
回答非該当：表76「コカインという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

	男　性	女　性	全　体
1～5人	12 (57.1)	10 (76.9)	22 (64.7)
6～10人	3 (14.3)	－ －	3 (8.8)
11～15人	－ －	1 (7.7)	1 (2.9)
16～20人	1 (4.8)	1 (7.7)	2 (5.9)
無回答	5 (23.8)	1 (7.7)	6 (17.6)
合計	21 (100.0)	13 (100.0)	34 (100.0)

表78　ｺｶｲﾝをこれまでに使用した人を何人知っていますか？（%）

	男　性	女　性	全　体
知らない	1643 (92.1)	1769 (88.4)	3415 (90.2)
知っている	4 (.2)	4 (.2)	8 (.2)
無回答	11 (.6)	12 (.6)	23 (.6)
回答非該当	125 (7.0)	217 (10.8)	342 (9.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表79　ｺｶｲﾝを過去1年に使用した人を知っていますか？（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む
回答非該当：表76で「コカインという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

	男　性	女　性	全　体
1～5人	1 (25.0)	4 (100.0)	5 (62.5)
6～10人	1 (25.0)	－ －	1 (12.5)
無回答	2 (50.0)	－ －	2 (25.0)
合計	4 (100.0)	4 (100.0)	8 (100.0)

表80　ｺｶｲﾝを過去1年に使用した人を何人知っていますか？（%）

	男　性	女　性	全　体
な　い	1681 (94.3)	1837 (91.8)	3521 (93.0)
1年間より前にあった	10 (.6)	3 (.1)	13 (.3)
1年間にあった	1 (.1)	－ －	1 (.0)
無回答	91 (5.1)	162 (8.1)	253 (6.7)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表81　ｺｶｲﾝ使用に誘われたことがありますか？（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
な　い	1685 (94.5)	1835 (91.7)	3523 (93.0)
1年間より前にあった	4 (.2)	1 (.0)	5 (.1)
1年間にあった	1 (.1)	— —	1 (.0)
無回答	93 (5.2)	166 (8.3)	259 (6.8)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表82　ｺｶｲﾝ使用経験（%）　全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
以前より増えている	214 (12.0)	245 (12.2)	460 (12.1)
変わらない	104 (5.8)	61 (3.0)	165 (4.4)
以前より減っている	18 (1.0)	12 (.6)	30 (.8)
わからない	1026 (57.5)	968 (48.4)	1995 (52.7)
LSDと言う言葉を知らない	359 (20.1)	637 (31.8)	997 (26.3)
無回答	62 (3.5)	79 (3.9)	141 (3.7)
合　計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表83　LSD使用者人数の印象（%）　全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
知らない	1328 (74.5)	1262 (63.0)	2592 (68.4)
知っている	21 (1.2)	12 (.6)	33 (.9)
無回答	13 (.7)	12 (.6)	25 (.7)
回答非該当	421 (23.6)	716 (35.8)	1138 (30.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表84　LSDをこれまでに使用した人を知っていますか？（%）　全体の中には、性別不明者3名を含む

回答非該当：表83で「LSDという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

	男　性	女　性	全　体
1～5人	12 (57.1)	11 (91.7)	23 (69.7)
6～10人	2 (9.5)	1 (8.3)	3 (9.1)
16～20人	2 (9.5)	— —	2 (6.1)
無回答	5 (23.8)	— —	5 (15.2)
合計	21 (100.0)	12 (100.0)	33 (100.0)

表85　LSDをこれまでに使用した人を何人知っていますか？（%）

	男　性	女　性	全　体
知らない	1338 (75.0)	1271 (63.5)	2611 (68.9)
知っている	10 (.6)	3 (.1)	13 (.3)
回答非該当	421 (23.6)	716 (35.8)	1138 (30.0)
無回答	14 (.8)	12 (.6)	26 (.7)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表86　LSDを過去1年に使用した人を知っていますか？（%）　全体の中には、性別不明者3名を含む

回答非該当：表83で「LSDという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

	男　性	女　性	全　体
1～5人	7 (70.0)	2 (66.7)	9 (69.2)
6～10人	— —	1 (33.3)	1 (7.7)
無回答	3 (30.0)	— —	3 (23.1)
合計	10 (100.0)	3 (100.0)	13 (100.0)

表87　LSDを過去1年に使用した人を何人知っていますか？（%）

	男　性	女　性	全　体
な　い	1400 (78.5)	1349 (67.4)	2751 (72.6)
1年間より前にあった	8 (.4)	2 (.1)	10 (.3)
1年間にあった	2 (.1)	— —	2 (.1)
無回答	373 (20.9)	651 (32.5)	1025 (27.1)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表88　LSD使用に誘われたことがありますか？（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
な　い	1421 (79.7)	1355 (67.7)	2778 (73.3)
1年間前にあった	2 (.1)	— —	2 (.1)
1年間にあった	2 (.1)	— —	2 (.1)
無回答	358 (20.1)	647 (32.3)	1006 (26.6)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表89　LSD使用経験（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
簡単に手に入る	683 (38.3)	435 (21.7)	1121 (29.6)
少々苦労するが何とか手に入る	333 (18.7)	335 (16.7)	668 (17.6)
ほとんど不可能	346 (19.4)	481 (24.0)	827 (21.8)
絶対不可能	259 (14.5)	514 (25.7)	773 (20.4)
シンナーという言葉を知らない	20 (1.1)	39 (1.9)	59 (1.6)
無回答	142 (8.0)	198 (9.9)	340 (9.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表90　有機溶剤入手の難易度（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
簡単に手に入る	53 (3.0)	38 (1.9)	92 (2.4)
少々苦労するが何とか手に入る	228 (12.8)	156 (7.8)	384 (10.1)
ほとんど不可能	564 (31.6)	370 (18.5)	934 (24.7)
絶対不可能	799 (44.8)	1241 (62.0)	2042 (53.9)
大麻という言葉を知らない	41 (2.3)	69 (3.4)	110 (2.9)
無回答	98 (5.5)	128 (6.4)	226 (6.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表91　大麻入手の難易度（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
簡単に手に入る	60 (3.4)	48 (2.4)	108 (2.9)
少々苦労するが何とか手に入る	219 (12.3)	153 (7.6)	373 (9.8)
ほとんど不可能	548 (30.7)	370 (18.5)	918 (24.2)
絶対不可能	833 (46.7)	1262 (63.0)	2097 (55.4)
覚せい剤という言葉を知らない	28 (1.6)	39 (1.9)	67 (1.8)
無回答	95 (5.3)	130 (6.5)	225 (5.9)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表92　覚せい剤入手の難易度（%）　　全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
簡単に手に入る	38 (2.1)	30 (1.5)	68 (1.8)
少々苦労するが何とか手に入る	175 (9.8)	128 (6.4)	303 (8.0)
ほとんど不可能	565 (31.7)	354 (17.7)	919 (24.3)
絶対不可能	845 (47.4)	1240 (61.9)	2088 (55.1)
ヘロインという言葉を知らない	66 (3.7)	118 (5.9)	184 (4.9)
無回答	94 (5.3)	132 (6.6)	226 (6.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表93　ヘロイン入手の難易度（%）　　全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女　性	全　体
簡単に手に入る	40 (2.2)	28 (1.4)	68 (1.8)
少々苦労するが何とか手に入る	180 (10.1)	136 (6.8)	316 (8.3)
ほとんど不可能	560 (31.4)	359 (17.9)	919 (24.3)
絶対不可能	843 (47.3)	1252 (62.5)	2098 (55.4)
コカインという言葉を知らない	60 (3.4)	99 (4.9)	159 (4.2)
無回答	100 (5.6)	128 (6.4)	228 (6.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表94　コカイン入手の難易度（%）　　全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
簡単に手に入る	41 (2.3)	27 (1.3)	68 (1.8)
少々苦労するが何とか手に入る	161 (9.0)	97 (4.8)	259 (6.8)
ほとんど不可能	501 (28.1)	278 (13.9)	779 (20.6)
絶対不可能	728 (40.8)	991 (49.5)	1720 (45.4)
LSDという言葉を知らない	250 (14.0)	481 (24.0)	732 (19.3)
無回答	102 (5.7)	128 (6.4)	230 (6.1)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表95　LSD入手の難易度（%）　　全体の中には、性別不明者3名を含む

	男　性	女　性	全　体
法律で禁止なのですべきではない	1524 (85.5)	1739 (86.9)	3266 (86.2)
法律で禁止だが少々ならかまわない	18 (1.0)	3 (.1)	21 (.6)
法律で禁止だが法律で決める必要はなく個人の自由	72 (4.0)	38 (1.9)	110 (2.9)
大麻のことを知らないから判断できない	105 (5.9)	133 (6.6)	238 (6.3)
法律と関わりなくすべきではない	1 (.1)	3 (.1)	4 (.1)
無回答	63 (3.5)	86 (4.3)	149 (3.9)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表96　法律で禁止されている大麻を吸うことをどう思いますか？（%）

全体の中には、性別不明者3名を含む

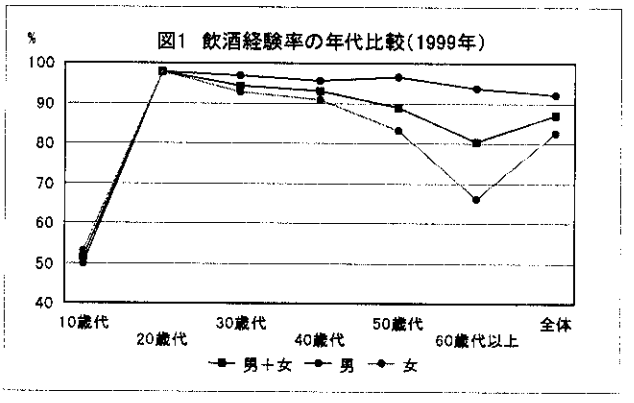
	男　性	女　性	全　体
法律で禁止なのですべきではない	1586 (89.0)	1788 (89.3)	377 (89.1)
法律で禁止だが少々ならかまわない	6 (.3)	1 (.0)	7 (.2)
法律で禁止だが法律で決める必要はなく個人の自由	43 (2.4)	33 (1.6)	76 (2.0)
覚せい剤のことを知らないから判断できない	84 (4.7)	98 (4.9)	182 (4.8)
法律と関わりなくすべきではない	2 (.1)	3 (.1)	5 (.1)
無回答	62 (3.5)	79 (3.9)	141 (3.7)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

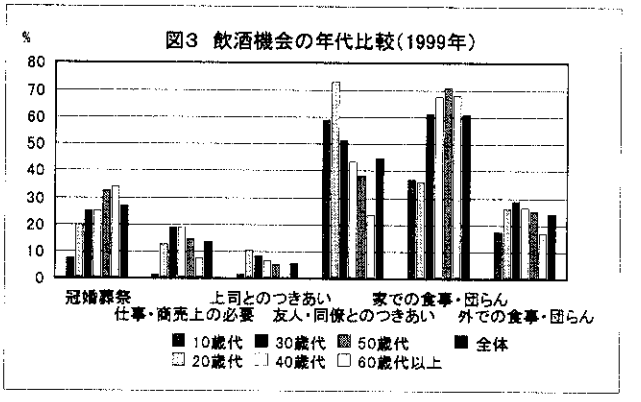
表97　法律で禁止されている覚せい剤を吸うことをどう思いますか？（%）

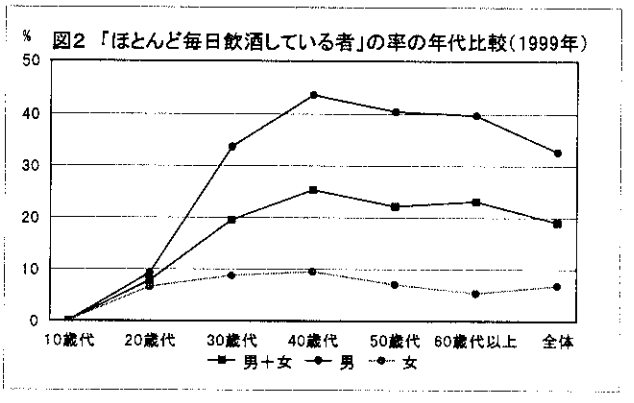
全体の中には、性別不明者3名を含む

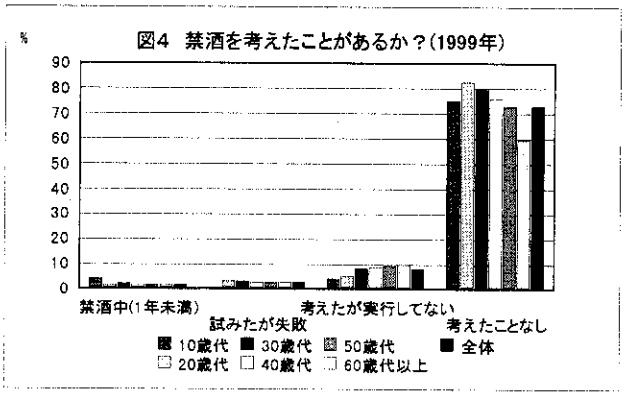
	男　性	女　性	全　体
内科	999 (66.2)	1200 (68.0)	2201 (67.2)
神経科・精神科	21 (1.4)	23 (1.3)	44 (1.3)
神経内科	24 (1.6)	23 (1.3)	47 (1.4)
外科	195 (12.9)	178 (10.1)	374 (11.4)
整形外科	280 (18.6)	283 (16.0)	563 (17.2)
皮膚科	196 (13.0)	301 (17.1)	497 (15.2)
脳神経外科	42 (2.8)	40 (2.3)	82 (2.5)
泌尿器科	72 (4.8)	40 (2.3)	112 (3.4)
産婦人科	1 (.1)	275 (15.6)	276 (8.4)
眼科	241 (16.0)	394 (22.3)	635 (19.4)
歯科	693 (46.0)	869 (49.2)	1563 (47.7)
耳鼻咽喉科	167 (11.1)	250 (14.2)	417 (12.7)
心療内科	11 (.7)	12 (.7)	23 (.7)
その他	30 (2.0)	29 (1.6)	59 (1.8)
合計	1508 (197.1)	1765 (221.9)	3276 (210.4)

表98　過去1年間に受診した診療科（複数回答）（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む









C．研究結果

1．回収結果（表2～表6）

回答数（率）は3,790（75.8%）であり、事故の内訳は表2、表3の通りである。地区別標本数と回答数（率）は表4の通りである。このうち2通はほとんど白紙であったため、無効とし、残り3,788通を有効回答（75.8%）とした。

対象の性・年齢・学歴は表5に示した。

対象の職業・身分は表6に示した。

2．調査結果（表7～表98）

調査結果の男女別集計を表7～表97に示した。また、調査結果の中で重要と思われる項目については図1～図28に示した。

D．考察

1．飲酒習慣について

現在の飲酒習慣を表7に示した。頻度的には、男性では「ほとんど毎日飲んでいる」者が32.6%と最も多く、女性では「この1年間で数回飲んだ」者が23.4%と最も多かった。

表7をもとにして、飲酒生涯経験率（これまでに飲酒したことのある者の割合）を算出した（表8）。飲酒生涯経験率は、男性で92.3%、女性で82.7%、全体で87.2%であった。これは、ほとんどの者に飲酒の生涯経験率があることを意味しており、わが国の場合、「飲んだことがあるか、ないか」を基準に飲酒関連問題を論じても意味がなく、機会、頻度、量等の質的因子を絡めて論じる必要があることを示唆している10)13)。

また、図1に飲酒経験率の年代別比較を示したが、男性では年代に関わらず高率であるが、女性では20歳代から年齢が進むに従って飲酒経験率が低くなっており、時代とともに女性の飲酒経験者が増えてきていることを示唆している。

飲酒1年経験率（この1年間で飲酒したことのある者の割合）を表9に示した。飲酒1年経験率は、男性では87.1%、女性では76.0%、全体では81.2%であった。

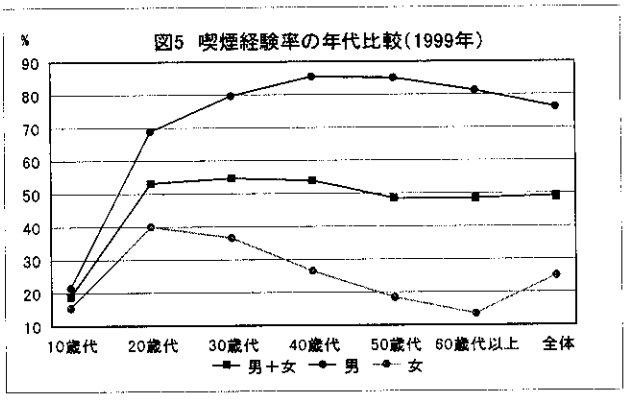


図5 喫煙経験率の年代比較(1999年)

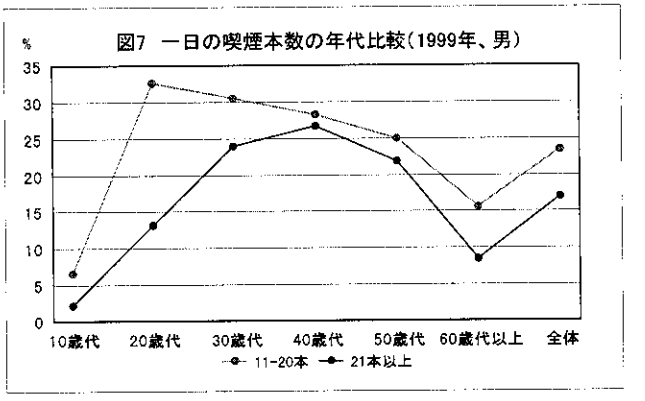


図7 一日の喫煙本数の年代比較(1999年、男)

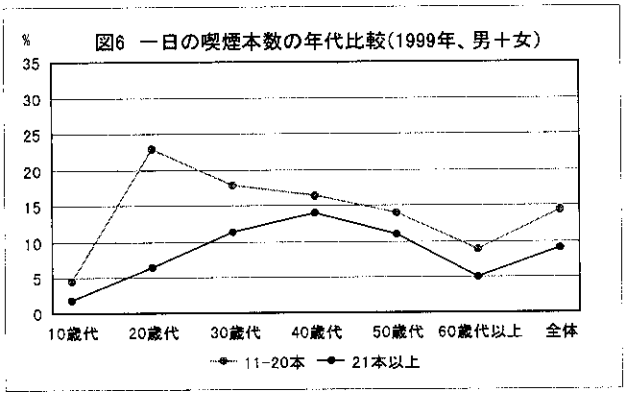


図6 一日の喫煙本数の年代比較(1999年、男＋女)

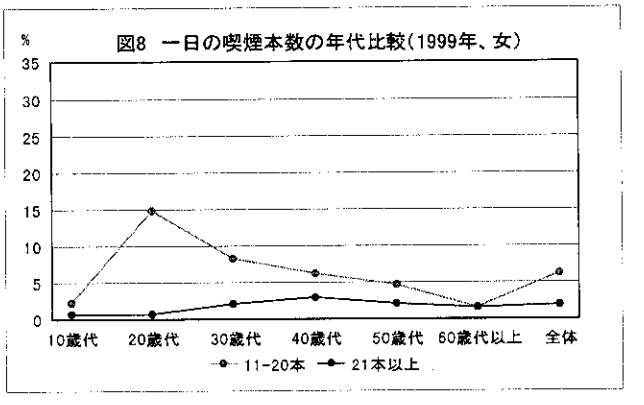


図8 一日の喫煙本数の年代比較(1999年、女)

図2は、「ほとんど毎日飲酒している者」の割合を年代比較で示している。男女共に、20歳代、30歳代と進むに従って増加し、40歳代でピークを迎え（男性で43.5%、女性で9.5%、全体で25.3%）、その後、低下することが示されている。しかも、この特徴は男性で著明である。

さらに、過去1年間での主な飲酒機会を表10に示した。男女ともに、「家での食事や団らん」でが最も多く（男性で64.2%、女性で57.8%、全体で61.1%）、「友人・同僚とのつきあい」でが2番目に多かった（男性で48.7%、女性で41.3%、全体で45.1%）。「外での食事・団らん」での飲酒経験率は女性の方で高かった。

これを年代別に比較した者が図3である。「冠婚葬祭」時の飲酒は年代と共に増加している。「仕事・商売上の必要」「上司のつきあい」は20歳代で急増し、その後、年代と共に低下していた。「友人・同僚とのつきあい」は10歳代でも高率であるが、それが20歳代では更に高くなり、その後、年代と共に低下していた。「家での食事・団らん」での飲酒は、20歳代で最も低く、その後急増し、50歳代で最も高かった。「外での食事・団らん」での飲酒は、30歳代で最も高かった。

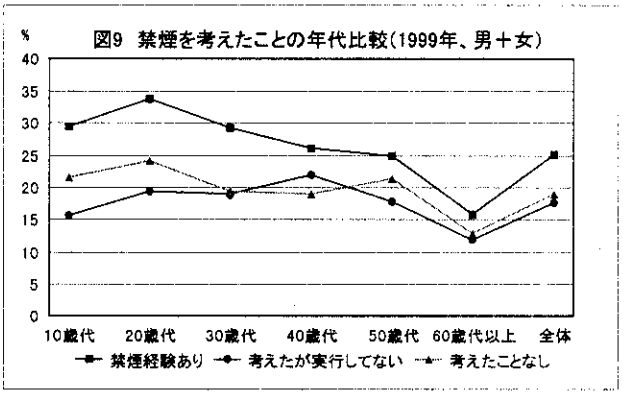
表11に飲酒生涯経験者の初飲年齢（初めての飲酒経験年齢）を示した。初飲年齢が18歳より前の者は、男性の50.5%、女性の36.7%、全体の43.6%であり、男女ともに18～19歳で飲酒する者が急激に増え、初飲年齢が20歳前の者が、男性では77.8%、女性では61.3%、全体で69.6%であった。また、初飲年齢上の年代的ピークは、男性では18～19歳の27.3%、女性では20歳以降の32.9%であり、全体では18～19歳の26.0%と20歳以降の26.4%が拮抗していた。この初飲は、冠婚葬祭や家族の団らんが深く関わっていることが中学生の調査より明らかになっている10)13)。

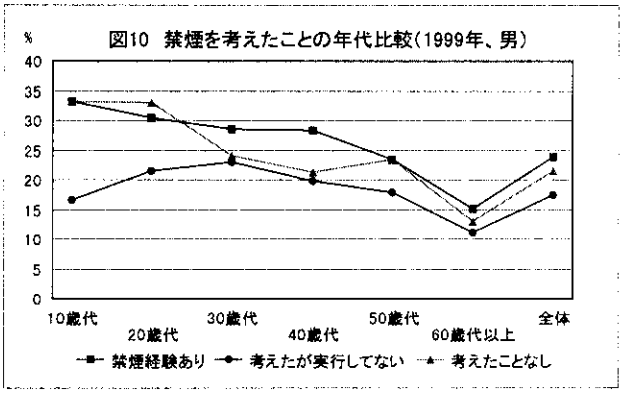
表12に飲酒生涯経験者がそれなりに飲酒するようになった時期を示した。男女ともに18～19歳で急に増え、20歳以降で激増していた。

表13に現在禁酒中の者の禁酒期間を示した。禁酒期間が5年以上の者が男女とも最も多く、男性では49.3%、女性では46.7%、全体では48.3%であった。

表14に、飲酒生涯経験者の禁酒経験を示した。

禁酒を考えたことのない者が男女とも70%台と最も多いが、男性では「禁酒を考えたが実行したことがない」者が12.0%おり、「禁酒中」（1.9%）、

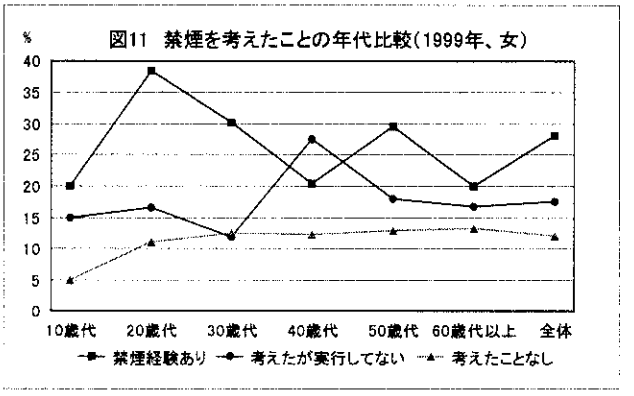




「禁酒を試みたが失敗した」(4.0%) を含めると、禁酒を考えたことがある者が男性では17.9%にのぼった (女性では8.3%、全体では13.1%)。図4は、この禁酒経験を年代別に比較したものである。「考えたが実行していない」者が年代と共に増加するが、基本的には、年代に関わらず、「(禁酒を) 考えたことがない」者が圧倒的に多く、禁煙との違いが明かである (後述)。

表15に、禁酒した人及び禁酒を考えたことのある人の禁酒理由を示した。男女共に、最も多い理由は「健康上の不調は感じないが可能性が心配になったから」であり (男性45.2%、女性43.0%、全体44.6%)、次に「健康上の不調を感じたから」が拮抗していた (男性41.6%、女性34.4%、全体39.2%)。一方、自分の飲酒に問題を感じたり、問題を起こしたことが理由となった者は、男性では14.7%、女性では14.1%、全体では14.5%であった。いずれにしても、問題を感じる・起こすよりも、健康上の理由の方が明らかに多かった。

以上のように、飲酒に関しては、わが国のライフサイクルの影響が色濃く反映していると考えられる。



2．喫煙習慣について

喫煙習慣を表16に示した。また、これをもとにした喫煙生涯経験率を表17に示した。喫煙の生涯経験率は、男性で76.4%、女性で25.1%、全体で49.3%であった。表16をもとに算出すると、調査時点での喫煙率は、男性で48.7%、女性では14.7%、全体で30.8%である。1995年の本調査5)によれば、それぞれ53.3%、13.9%、32.7%であり、1997年調査6)では、それぞれ51.7%、15.0%、32.7%であり、男性での喫煙者の減少傾向と女性での横這い傾向が示唆される。

喫煙生涯経験率を年代別に比較したものが図5である。全体では20歳代～40歳代が等しくピークであるが、男性では40歳代にピークがあり、女性では20歳代にピークがあると同時に、10歳代を除けば、年代が若いほど喫煙経験率が明らかに高くなっていることが明かである。このパターンは図1の飲酒生涯経験率のパターンと同様であり、時代と共に女性の喫煙率が高くなっていることを示している。

初めての喫煙年齢は、表18に示したが、男女共に中学校時代から増え始め、18歳前に男子では47%、女子では40%、全体では45%の者が喫煙経験を持つようになっていた。

一方、それなりに喫煙するようになったのは(表19)、男女共に18～19歳であり、その時までに男性では47%が、女性では39%が、全体では45%の者が、それなりに喫煙するようになっていた。

図6～図8は、一日の喫煙本数が11～20本と21本以上の者の割合を年代別に示したものである。男性では、11～20本／日の者の割合が、20歳代以降、明らかに低下して行くが、その反面、21本以上／

日の者の割合が年代と共に明らかに上昇し、40歳代でピーク（26.7%）となっている（図7）。それ以降は、喫煙率自体が低下していくものと推定できる。女性では、20歳代で11～20本／日喫煙する者の割合が突出して高い（14.8%）が、それ以降は年代と共に低下していく。21本以上／日の割合は、男性同様に40歳代にピーク（3.0%）があるが、その割合自体は相対的に低い。

禁煙者の禁煙期間は表20の通りである。禁煙期間が5年以上の者の割合が明らかに多いことは、禁酒（表13）と同様であるが、このことは、逆に5年以上禁煙していれば、禁煙が維持できやすいことを示唆している可能性がある。

これまでの禁煙経験は表21に示した。無回答の者を除くと、「過去に禁煙期間があった」者の割合は、男性では38.0%、女性では48.8%であり、全体では40.7%であった。また、「禁煙を考えたが実行したことがない」者の割合は、男性では27.8%、女性では30.2%、全体では28.5%に上った。これら両群を禁煙希望群とすると、禁煙希望群は、男性では65.8%、女性では79.0%、全体では69.2%に上る。これらの結果は、喫煙者といえども、禁煙を考えている者の方が多いことを示している。

図9～図11に、年代毎の禁煙経験を比較したが、男性では、年代と共に「禁煙経験あり」の者の割合が減少し、「考えたが実行していない」者の割合は30歳代にピーク（23.1%）となるが、以降、低下していっている（図10）。これは、禁煙する者は禁煙し、そうでない者は、半ばあきらめていっているとも推定できる。一方、女性では、20歳代に「禁煙経験あり」のピーク（38.5%）があるが、結婚・出産等の影響があるのかも知れない。

また、禁煙を考えた理由としては、「健康上の不調は感じないが、可能性が気になった」と答えた者の割合が、「健康上の不調」を挙げた者よりも明らかに多く、喫煙の健康に及ぼす影響についての認識が持たれていることを推測させる。ちなみに、禁酒を考えた理由としては、「健康上の不調は感じないが、可能性が気になった」を選んだ者が最も多かったのは禁煙と同じであるが、その割合は「健康上の不調」を挙げた者に接近していた（表15）。

3．常備薬・医薬品について

1．常備薬について

家庭の常備薬の常備状況については表23に示した。常備薬としては、①風邪薬、胃腸薬、②湿布薬、③鎮痛薬、ビタミン剤、④抗生物質、精神安定薬、睡眠薬と頻度的に多く、その割合、順序は1995年調査5)、1997年調査6)の結果とほとんど同じである。また、常用（週4回以上）している医薬品としては、男女共にビタミン剤が多く、その次に胃腸薬であり、その他は非常に割合が少なかった（表24）。

医薬品の中でも、鎮痛薬、精神安定薬、睡眠薬の中には依存形成性を有するものがあるため、それらの医薬品の使用頻度、入手先、使用理由、使用上の心情・実情を表25～36に示した。

2．鎮痛薬使用について

鎮痛薬の使用頻度（表25）では、「1年間で数回」使用した者が男性で26.1%、女性で31.7%、全体で29.1%と最も多かった。表25をもとに、1年間での鎮痛薬の使用経験者率を（無回答者を含めて）算出すると、男性で35.4%、女性で52.4%、全体で44.4%であった。1995年調査5)では、それぞれ26.8%, 42.3%, 34.9%であり、1997年調査6)では、それぞれ27.1%, 43.5%, 35.5%であり、今回の方が全てにおいて1年経験率が高かった。これについては、質問形式が1999年調査から若干変更されたことによる可能性もあが、後述する精神安定薬使用状況から考えると、形式変更による変化はさほどないと考えられ、どういう訳か、1999年調査による鎮痛薬１年経験率は高いと言うことになる。しかし、男性よりも女性での1年経験率が高いのは、毎回、同じである。

鎮痛薬の使用には、慢性疼痛に対する使用もあり、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表25の「週に3～6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では1.6%、女性では1.7%、全体では1.6%が、それに該当した。1995年調査5)、1997年調査6)では、「週数回以上使用した人」を常用者とした場合、1995年調査では、常用者は全体で3.0%であり、1997年調査では3.5%であった。これも、質問形式の変更による可能性は否定できないが、表25を見る限り、鎮痛薬の使用が社会問題化しているとは推

定できない。

また、鎮痛薬の入手先（表26）は、「薬剤師・薬局」と「医師・医院・病院」が拮抗しており、女性では使用理由として「生理痛」が多い（表27）こともあってか、「薬剤師・薬局」からの入手が最も多かった。

鎮痛薬の使用目的としては、「痛み」がほとんどであり、「遊び・快感目的」は男性で 1 人いたに過ぎない（表 27）。

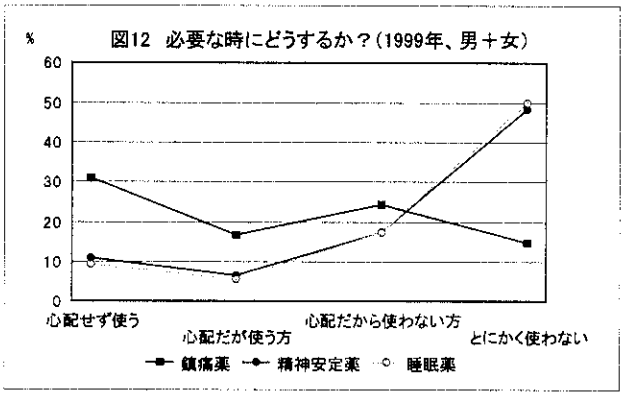
3．精神安定薬使用について

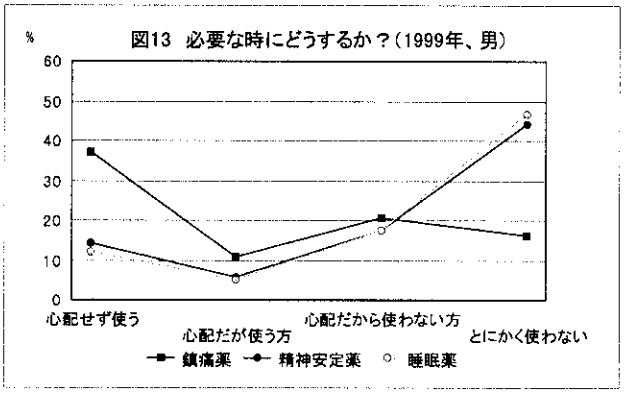
精神安定薬の使用頻度（表29）では、男性では「ほとんど毎日」使用した者が2.0%と最も多く、次に「1年間で数回」使用した者が1.6%と多かった。女性では逆に「1年間で数回」使用した者が3.6%と最も多く、次に「ほとんど毎日」使用した者が1.7%と多かった。表29をもとに、1年間での精神安定薬の使用経験者率を（無回答者を含めて）算出すると、男性で5.7%、女性で8.5%、全体で7.2%であった。1995年調査5)では、それぞれ5.2%, 6.9%, 6.1%であり、1997年調査6)では、それぞれ4.8%, 7.8%, 6.4%であり、今回の方が全てにおいて1年経験率がわずかに高かった。評価には、質問形式が1999年調査から若干変更されたことも考慮せざるを得ないが、男性よりも女性での1年経験率が高いのは、毎回、同じである。

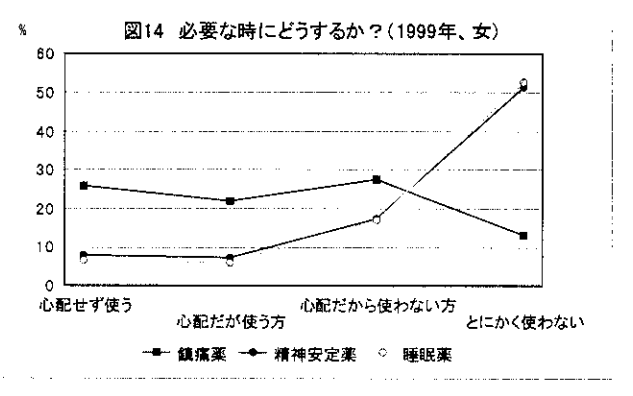
精神安定薬の使用には、高血圧及び慢性的精神疾患に対する使用もあり（表30）、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表29の「週に3～6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では2.3%、女性では2.8%、全体では2.6%が、それに該当した。1995年調査5)、1997年調査6)では、「週数回以上使用した人」を常用者とした場合、1995年調査では、常用者は全体で2.6%であり、1997年調査では2.4%であった。これも、質問形式の変更による影響を考慮する必要があるが、表29を見る限り、精神安定薬の使用が社会問題化しているとは推定できない。

また、精神安定薬の入手先（表30）は、ほとんど「医師・医院・病院」に限定されており、社会的管理が良好であることが推定できる。

精神安定薬の使用目的としては、男女共に「不眠改善」目的が最も多いが、男性では「高血圧の治療」が第2位であり、女性では「不安解消」が第2位であった（表31）。「遊び・快感目的」は男性で1人いたに過ぎない（表31）。







4．睡眠薬使用について

睡眠薬の使用頻度（表33）では、男女ともに、「1年間で数回」使用した者が、それぞれ2.0%、3.3%、全体で2.7%と最も多かった。第2位は男女共に「ほとんど毎日」使用した者であった。表33をもとに、1年間での睡眠薬の使用経験者率を（無回答者を含めて）算出すると、男性で4.9%、女性で6.5%、全体で5.8%であった。1995年調査5)では、それぞれ4.4%, 5.0%, 4.7%であり、1997年調査6)では、それぞれ4.2%, 5.5%, 4.9%であり、今回の方が全てにおいて1年経験率がわずかに高かった。評

価には、質問形式が1999年調査から若干変更されたことも考慮せざるを得ないが、男性よりも女性での1年経験率が高いのは、毎回、同じである。

睡眠薬の使用には、高血圧及び慢性的精神疾患に対する使用もあり（表30）、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表33の「週に3～6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では1.8%、女性では1.2%、全体では1.5%が、それに該当した。1995年調査5)、1997年調査6)では、「週数回以上使用した人」を常用者とした場合、1995年調査では、常用者は全体で1.6%であり、1997年調査では1.4%であった。これも、質問形式の変更による影響を考慮する必要があるが、ほとんど横這い状態と考えられる。

また、睡眠薬の入手先（表34）は、ほとんど「医師・医院・病院」に限定されており、社会的管理が良好であることが推定できる。

睡眠薬の使用目的としては、男女共に「不眠改善」目的が最も多いが、男性では「高血圧の治療」「不安解消」もそれなりにいた（表31）。「遊び・快感目的」の者は認められなかった（表31）。

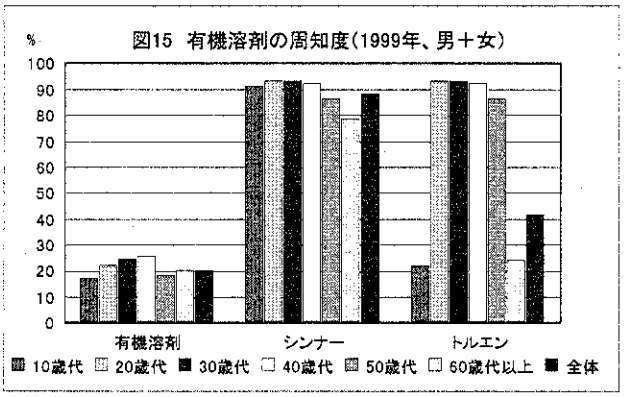
5．鎮痛薬・精神安定薬・睡眠薬使用についての心情・実情

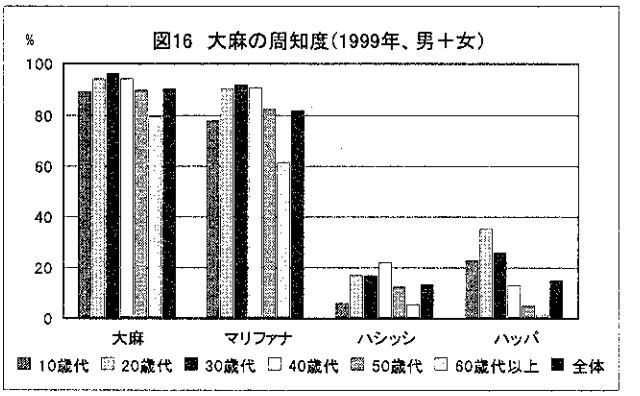
医薬品の中には、不適切な使用により依存に陥る医薬品があるのは確かである。そこで、そのような医薬品を使用する必要性が生じた場合、使用についての心情・実情を表28、表32、表36に示した。また、図12～図14にそのまとめを図示した。

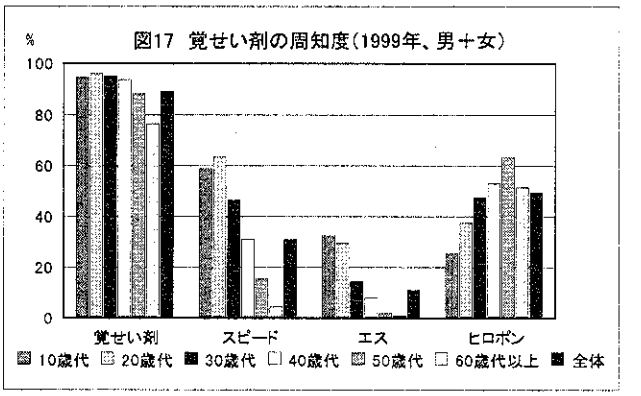
鎮痛薬では、使う群（「心配せず使う」＋「心配だが使う」）は、男性では48.1%、女性では57.7%、全体では47.9%と、使わない群（「心配だから使わない」＋「とにかく使わない」）の37.3%、40.5%、39.0%よりも多かった。

一方、精神安定薬では、使わない群（「心配だから使わない」＋「とにかく使わない」）が、男性で62.1%、女性で68.8%、全体で65.7%であり、使う群（「心配せず使う」＋「心配だが使う」）のそれぞれ20.3%、15.3%、17.7%よりは明らかに多かった。睡眠薬では、使わない群がそれぞれ、64.3%、69.7%、67.2%で、使う群がそれぞれ17.4%、12.7%、14.9%と、使わない群が若干ではあるが、更に多かった。

本研究者らは、わが国の薬物乱用・依存状況が







多くの先進国に比べて低い背景には、「必要な時でも、心配だから、どちらかというと、使わないようにしている」、あるいは、「必要な時でも、心配だから、とにかく使わない」という考え方が正の方向に影響している可能性があると推測している。ただし、必要以上に使わないことにこだわることは、苦痛を助長する面もあり、適正使用が必要となる。

4．違法性薬物について

1．違法性薬物について

違法性薬物の名前をどの程度知っているか（周知度）を、表37に示した。

有機溶剤に関しては、「シンナー」というと男女共に90%弱の者が周知しているが、「有機溶剤」というと、年代に関係なく約20%前後の者しか周知していなかった。また、「トルエン」に関しては、20～50歳代の者では約90%前後の者が周知していたにも関わらず、トルエンを主流とする「シンナーあそび」の最頻年代である15～19歳では、17.2%の者しか周知しておらず、薬物乱用防止教育の一層の徹底が望まれる（図15）。

大麻に関しては、「大麻」という用語は男女共に約90%前後の者に知られているが、「マリファナ」は男女共に約80%強に減少し、「ハシッシ」（大麻樹脂）に至っては、男性で18.7%、女性で9.6%、全体で13.9%の者しか周知していなかった(表37)。入手可能性の高まった今日、俗語の普及が要求されると言う事態にもなりかねない。

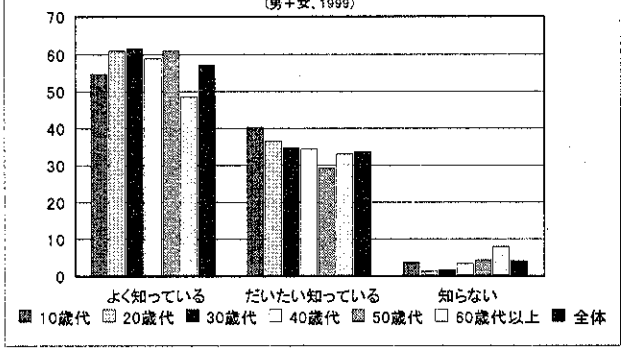
また、覚せい剤については、「覚せい剤」自体は男女共に約90%弱の者が周知していたが、「スピード」となると、周知者は男性で33.4%、女性で29.4%、全体で31.3%に低下し、「エス」では、それぞれ、さらに12.1%, 10.6%, 11.3%と激減していた(表37)。第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つには、かつて「シャブ」と言われた覚せい剤を「スピード」「エス」と称して、若者がファッショナブル感覚で使用するという面がある。実際、「スピード」や「エス」の周知者率は15～19歳と20歳代に比較的高い（図17）。逆に、覚せい剤第1次乱用期を象徴する「ヒロポン」は、年代が高いほど周知者率も高い（図17）。

依存性薬物の乱用の繰り返しは薬物依存を生み出すが、そのことを知っているかどうかについての結果を表38に示した。「よく知っている」＋「だいたい知っている」を合わせると、男性では92.1%、女性では90.3%、全体では91.1%の者が知っており、良好な結果であった。図18は周知度の年代比較を示している。

2．違法性薬物の乱用拡大傾向について

有機溶剤、大麻、覚せい剤、ヘロイン、コカイン、LSD乱用者の増減傾向についての印象を調べた（表39、表52、表61、表69、表76、表83）。その中から、「以前より増えている」「わからない」「言葉がわからない」を選んだ者の割合を表99に示した。どの薬物に関しても、「わからない」を

図18　薬物乱用を繰り返すと依存状態になることを知っているか？
（男＋女、1999）



	以前より増えている	わからない	言葉がわからない
「ｼﾝﾅｰ遊び」	20.5	56.3	1.5
大麻	25.3	61.8	2.3
覚せい剤	42.2	49.2	1.0
ヘロイン	17.0	65.4	5.6
コカイン	17.6	65.5	5.2
LSD	12.1	52.7	26.3

表99　乱用は増えていると思うか？

	男 性	女 性	全 体
「ｼﾝﾅｰ遊び」	21.3	16.4	18.7
大麻	5.4	2.8	4.0
覚せい剤	5.8	4.2	5.0
ヘロイン	0.9	0.2	0.6
コカイン	1.2	0.6	0.9
LSD	1.2	0.6	0.9

表100　これまでに違法性薬物を乱用したことがある人を知っている率

	男 性	女 性	全 体
「ｼﾝﾅｰ遊び」	2.7	2.0	2.4
大麻	1.4	0.5	1.0
覚せい剤	1.9	1.2	1.5
ヘロイン	0.2	0.1	0.2
コカイン	0.2	0.2	0.2
LSD	0.6	0.1	0.3

表101　この1年間に違法性薬物を乱用したことがある人を知っている率

選んだ者が過半数を超えていた。現実問題、これは誰にも本当のところはわからないのであり、それを探ろうというのが本調査研究の目的でもある。ただし、覚せい剤については、「以前より増えている」を選んだ者が42.2%もいた。おそらく、様々なマスメディアによる第3次覚せい剤乱用期に関する報道の影響と推定される。

3．違法性薬物乱用者の認知率

これまでに違法性薬物を乱用したことがある人を知っているかどうかを表40、表53、表62、表70、表78、表84に示した。その内、「知っている」と答えた者の割合を表100に示した。また、この1年間に違法性薬物を乱用したことがある人を知っているかどうかを表42、表55、表65、表72、表79、表86に示した。その内、「知っている」と答えた者の割合を表101に示した。

ただし、1995年調査5)、1997年調査6)の同種の質問では「あなたの周囲で」という修飾がついていたが、今回はそれを付けなかったため、質問の解釈が曖昧となり、マスメディアによる乱用者の周知も含まれてしまった可能性があり、過去の調査結果との比較ができなかった。今後の本調査では、再度、「あなたの周囲で」を付ける必要がある。

また、これまで及びこの1年間で違法薬物を乱用した人を何人知っているかを、それぞれ表41、表53、表63、表71、表78、表85及び表43、表56、表65、表73、表80、表87に示したが、前述のように「あなたの周囲で」という修飾を付けなかったため、今回は論評を避けることにした。

4．違法性薬物乱用へ誘われた経験

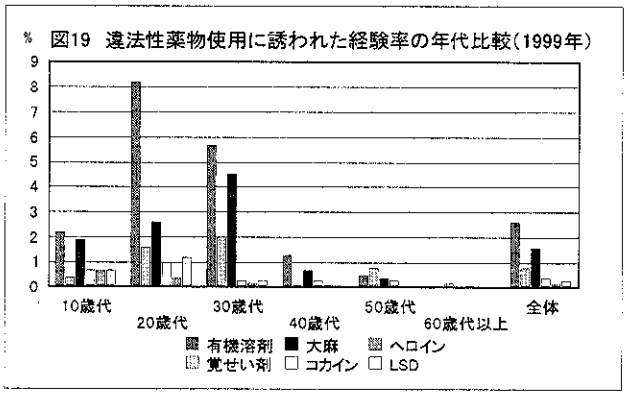
違法薬物の乱用に誘われたことがあるかないかの結果を、表44、表57、表66、表74、表81、表88、表106に示した。表102は、生涯誘惑率（これまでに誘われたことのある率）の推移であり、表103は、1年誘惑率（この1年間に誘われたことのある率）の推移である。この種の違法薬物に関する調査では、知られたくないという心理が働きがちであり、結果の信憑性が問題になる（後述する乱用の経験では特にそうである）が、重要なのは同じ方法論（＝同じバイアス、と仮定して）による結果の推移である。その意味では、乱用経験率よりは誘惑率の方が信頼性は高いと考えられる。また、1年間での率よりは、これまでの生涯率の方が信頼性は高いと推定できる。

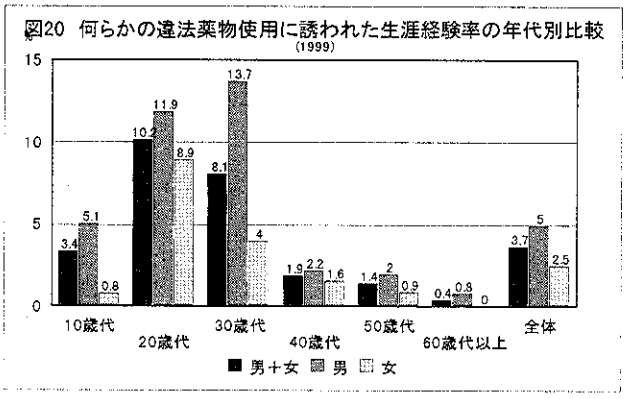
	1995年5)	1997年6)	1999年
「ｼﾝﾅ-遊び」	1.7	1.6	2.6
大麻	1.0	1.3	1.5
覚せい剤	0.6	0.4	0.8
ヘロイン	0.2	0.1	0.2
コカイン	0.2	0.2	0.4
LSD			0.3
いずれか			3.7

表102　これまでに違法性薬物の乱用に誘われたことのある率の推移

	1995年5)	1997年6)	1999年
「ｼﾝﾅ-遊び」	0.2	0.08*	0.05*
大麻	0.2	0.16	0.08*
覚せい剤	0.05*	- *	0.08*
ヘロイン	-	0.08*	0.03*
コカイン	0.05*	0.03*	0.03*
LSD			0.05*
いずれか			0.2

表103　この1年間で違法性薬物の乱用に誘われたことのある率の推移　＊：統計誤差内





生涯誘惑率では、有機溶剤、大麻、覚せい剤の順で高い。これは過去2回の調査でも同じであり、乱用の広がりの順位を反映していると推定できる。しかも、有機溶剤、大麻、覚せい剤の全てにおいて、生涯誘惑率が上昇を示していることは憂慮すべきことである。1年誘惑率は、数字が小さくあくまで参考である。

この生涯誘惑率を年代別に見ると図19のように年代的ばらつきが著明となる。

わが国の有機溶剤乱用による検挙者数のピークは、1982年にあるが、当時15～19歳にあった者は1999年には32～36歳であり、違法性薬物の乱用は誘われて始めることが多く、その意味では図19の30歳代での生涯誘惑率が最も高くなりそうだが、調査結果では、20歳代が8.2%と最高になっていた。有機溶剤の乱用最頻年齢が15～19歳であることを考えると、10代の者は正直に答えにくく、20歳代の者は比較的近くの過去のこととして答えやすいのかも知れない。

大麻乱用への生涯誘惑率は30歳代で最も高く（4.2%）、覚せい剤の生涯誘惑率も30歳代で最も高かった（2.0%）。

また、図20は何らかの違法薬物の乱用への生涯誘惑率を年代別に示しているが、30歳代男性、20歳代男女での生涯誘惑率が突出しており、年代的には20歳代が最高であることは憂慮すべきことである。

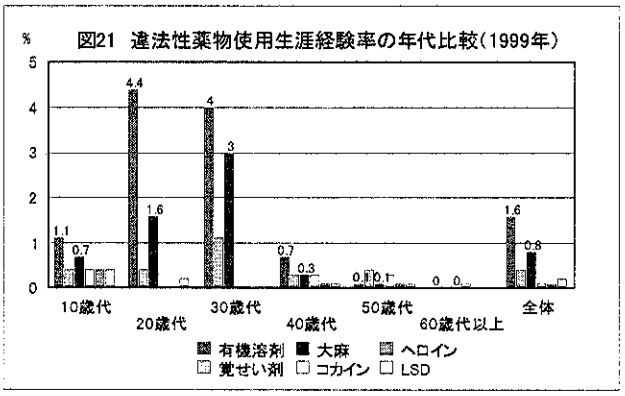
5．違法性薬物乱用経験

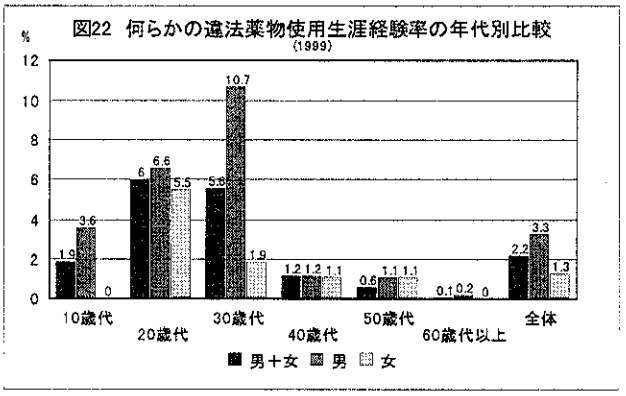
違法性薬物の乱用経験についての結果を、表45、表58、表67、表75、表82、表89、表107に示した。表104は、生涯経験率（これまでに乱用したことのある者の率）の推移であり、表105は、1年経験率（この1年間に乱用したことがある者の率）の推移である。生涯経験率と1年経験率の信憑性の問題は、前述した誘惑率と同様である。重要なのはトレンドを見ることである。

生涯経験率では、有機溶剤、大麻、覚せい剤の順で高い。これは過去2回の調査でも同じであり、乱用の広がりの順位を反映していると推定できる。しかも、大麻、覚せい剤において、生涯経験率が上昇を示していることは憂慮すべきことである。特に大麻乱用者は有機溶剤・覚せい剤乱用者に比べて検挙されにくく8)、精神障害も比較的起こしにくく、乱用・依存の広がりの程度を捕捉しにくいという特徴があり1)、現実の大麻乱用の広

	1995年5)	1997年6)	1999年
「シンナー遊び」	1.4	1.8	1.5
大麻	0.4	0.5	0.8
覚せい剤	0.3	0.3	0.4
ヘロイン	0.03*	0.03*	0.08*
コカイン	0.08*	0.05*	0.2
LSD			0.1*
いずれか	1.8	2.3	2.2

表104　これまでに違法性薬物の乱用を経験した率（生涯経験率）　＊：統計誤差内





	1995年5)	1997年6)	1999年
「シンナー遊び」	0.08*	0.03*	0.05*
大麻	0.05*	0.05*	0.05*
覚せい剤	0.05*	0.05*	0.08*
ヘロイン	－＊	0.03*	0.03*
コカイン	0.05*	0.03*	0.03*
LSD			0.05*
いずれか		0.05*	0.2

表105　この1年間で違法性薬物の乱用を経験した率（1年経験率）　＊：統計誤差内

がりは予想以上の可能性がある。今後のわが国の薬物乱用状況に影響しかねない問題である。

図21は、年代と経験薬物との関係を示したものである。有機溶剤の生涯経験率は20歳代、30歳代で高く、大麻の生涯経験率は30歳代、20歳代で高い。

生涯誘惑率で論じたが、わが国の有機溶剤乱用による検挙者数のピークは、1982年にあり、当時15～19歳にあった者は1999年には32～36歳であり、その意味では図21の30歳代での生涯経験率が最も高くなりそうなものだが、調査結果では、20歳代が4.4%と最高になっていた。有機溶剤の乱用最頻年齢が15～19歳であることを考えると、10代の者は正直に答えにくく、20歳代の者は比較的近くの過去のこととして答えやすく、30歳代以降の者にとっては過ぎ去った過去の出来事として、関心が薄れているのかもしれない。

図22は今回調査した何らかの違法性薬物の生涯経験率を年代別に示したものである。表104に示したように、覚せい剤の生涯経験率が0.4%で、何らかの違法性薬物乱用経験率が2.2%と言ったところで、図22のように年代を限れば、15～19歳での生涯経験率は1.9%、20歳代では6%、30歳では5.6%となり、30歳代の男性に限れば10.7%にもなる。この年代的差異が薬物乱用問題の一つの特徴である。しかも、若い年代ほど経験率が高いと言うことは、社会全体での薬物乱用傾向が強いことを意味しており、憂慮すべき事態を反映している可能性がある。

1年経験率は、答える側にとって、最も心理的抵抗が予想される質問であり、その結果かどうかは不明ではあるが、数字が小さいため、参考資料と言わざるを得ない。しかし、覚せい剤に関しては0.08%であり、これまでにない数字であることは、第3次覚せい剤乱用期を象徴している可能性がある。

6．薬物乱用が健康に及ぼす害知識について

今回の調査では、有機溶剤乱用が健康に及ぼす害について知識周知度を調べる質問を設け、その結果を表46～51に示した。これまで述べてきたように、乱用経験者の数の上ではわが国最大の問題でありながら、覚せい剤ほどには社会的に関心を集めない感があるからである。しかし、第2次覚せい剤乱用期の調査によれば、覚せい剤乱用・依存者の少なくとも1/3は、有機溶剤乱用から覚せい剤乱用に進んでおり、有機溶剤乱用の防止が結果的に覚せい剤乱用防止の有力対策になると考えられる。そのため、当研究者らは全国の中学生における薬物乱用状況を把握するための調査9)11)で、有機溶剤乱用による健康への害を教える形で調査しており、今回、成人を中心とする本調査にも同様の質問を織り込むことによって、社会での有機溶剤乱用への注意を喚起したいと考えた。

有機溶剤の乱用は急性中毒死を招くことがあるが、その周知度は70.7%であった（表46）。1998年の全国中学生調査11)では67.6%であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しは、歯をボロボロにすることがあるが、その周知度は56.7%であった（表47）。1998年の全国中学生調査では52.2%であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しは、多発神経炎を惹起する可能性があるが、その周知度は53.2%であった（表48）。1998年の全国中学生調査では63.0%であった。

幻覚・妄想を主とする精神病を惹起する可能性があるが、その周知度は77.1%であった（表49）。1998年の全国中学生調査では74.1%であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しは、無動機症候群を惹起する可能性があるが、その周知度は62.6%であった（表50）。1998年の全国中学生調査では49.0%であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しにより、一旦、精神病状態を経験した者には、その後、フラッシュバックが起きる可能性があることの周知度は、44.6%であった（表51）。1998年の全国中学生調査では46.9%であった。

以上のように、成人を中心とする有機溶剤乱用による健康への害知識は、1998年の全国中学生調査の結果とほとんど同じであり、社会における有機溶剤乱用への関心を喚起していく必要がある。

大麻の乱用は精神病状態を惹起したり、無動機症候群を引き起こすことがあることの周知率は69.8%であった（表60）。1998年の全国中学生調査では47.2%であった。覚せい剤乱用の繰り返しは、精神病を引き起こしやすく、フラッシュバックがあることの周知率は67.0%であった（表68）。1998年の全国中学生調査では55.8%であった。

これらの結果は、大麻及び覚せい剤による健康への害については成人の方が周知率が高いことを推定させる。

7．違法性薬物の入手可能性について

違法性薬物の入手可能性についての結果は表90～表95に示した。それをまとめたものが図23である。「簡単に手に入る」＋「少々苦労するが、なんとか手に入る」を入手可能群とし、「ほとんど不可能」＋「絶対不可能」を入手不可能群すると、有機溶剤のみが入手可能群（47.2%）が入手不可能群（42.2%）を上回っていた。その他の薬物については、図23のように入手は難しそうである。

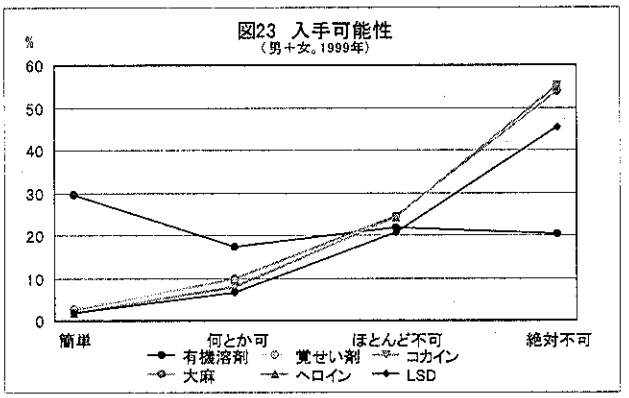
しかし、入手可能性を年代別に見ると様相は変わる（図24～図26）。有機溶剤では20歳代、30歳代、40歳代で入手可能群は50%を越える。大麻での入手可能群は15～19歳で24.3%、20歳代で22.1%、30歳代で16.7%となり、覚せい剤では15～19歳で28.9%、20歳代で22.5%、30歳代で15.2%となる。大麻及び覚せい剤では入手可能群は15～19歳で最も高いのである。これは、まさに「変造テレホンカードの路上での密売→同じルートでの大麻の密売→同じルートでの覚せい剤の密売」という第3次覚せい剤乱用期の出現様式の特徴12)に一致する結果である。

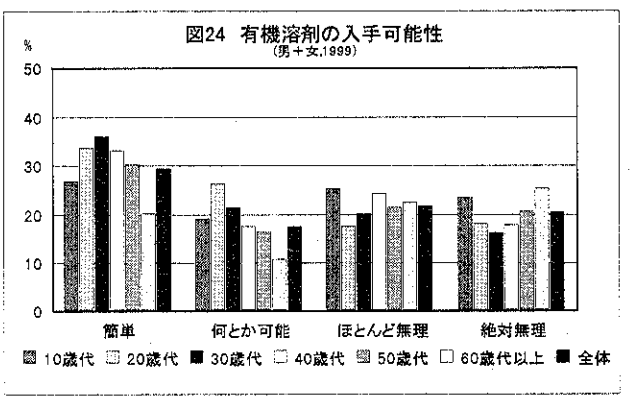
このことは違法薬物の生涯経験率で論じた薬物乱用・依存問題の年代的差異と同種の本質的問題である。

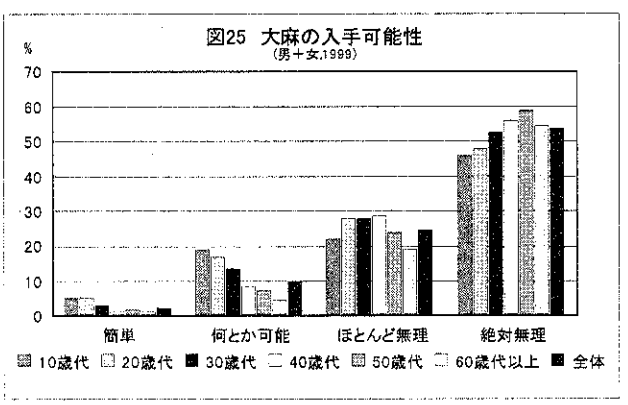
8．法の遵守性について

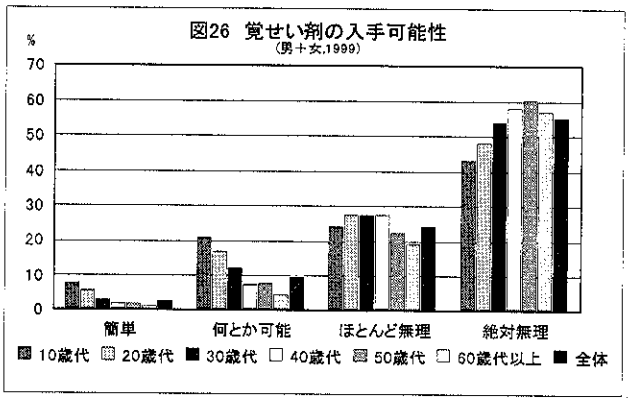
本研究者らは、わが国の薬物乱用・依存状況が多くの先進諸国に比べて良好な背景には、国民の遵法精神の高さがあると推定している。覚せい剤は使用自体が法により規制されており、その使用について如何なる意識を持っているかを調査した（表96、表97）。大麻では86.2%、覚せい剤では89.1%の者が「法律で禁止されているから、すべきではない」を選んだ。中には本来選択肢にはなかった「法律と関わりなく、すべきではない」と記載された方もいた（表96、表97）。これらは、まさに遵法精神の高さを物語っている。

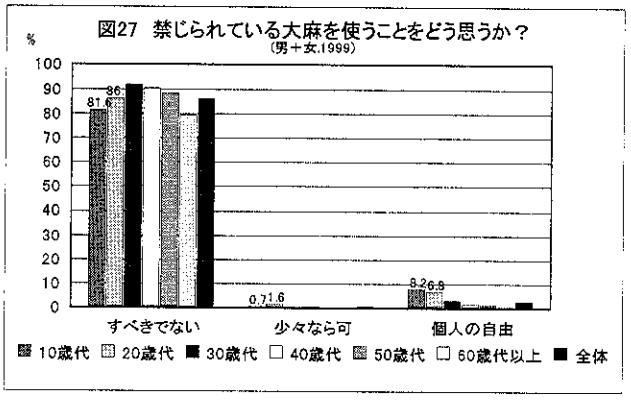
しかし、これを年代別に見ると（図27,図28）、少々危惧が生じる。60歳以上を除けば（60歳以上では無回答者が比較上多い）、「すべきでない」を選択した者の率は大麻でも覚せい剤でも15～19歳が最も少なく、次に20歳代が少ないという結果である。逆に、「法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要ななく、個人の自由だと思う」を選択した者の割合は、15～19歳で最も高く、大麻で8.2%、覚せい剤で6.7%にのぼった。20歳代ではそれぞれ、6.8%、5.2%であった。このような認識が増加すれば、わが国の薬物乱用・依存状況は好ましくない方向に進展することは明らかであり、薬物乱用・依存問題は「個人の自由」ではすまない問題であることの認識を徹底する必要がある。

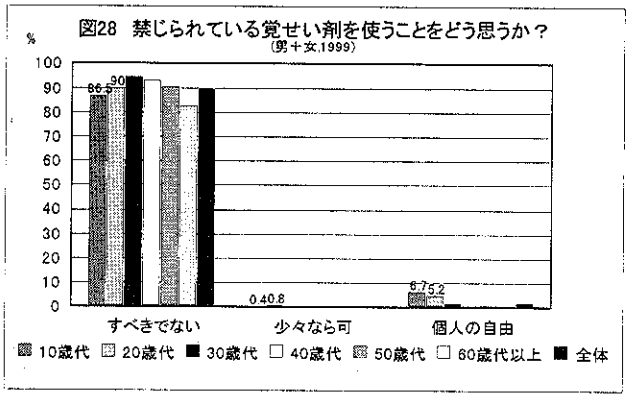












E. 結論

わが国の飲酒・喫煙・医薬品をも含めた薬物乱用・依存状況を把握するために、全国の15歳以上の住民に対して、戸別訪問留置法による「薬物使用に関する全国住民調査」を実施した。

① 対象は、層化二段無作為抽出法（調査値点数：350）を用い、5,000人を抽出した。調査期間は1999年9月22日～10月6日である。

② 回収数は3,790（75.8%）であり、有効回答数は3,788（75.8%）であった。

③ **飲酒生涯経験率**（これまでに1回でも飲酒したことのある者の率）は、男性で92.3%、女性で82.7%、全体で87.2%であった。

飲酒生涯経験者の初飲年齢が20歳前の者が、男性では77.8%、女性では61.3%、全体で69.6%であった。

「ほとんど毎日飲酒している」者の割合は、男女共に40歳代で最高となり（男性：43.5%、女性：9.5%、全体：25.3%）、その後、低下していた。

その他、飲酒の機会、禁酒経験等、わが国の飲酒はライフ・サイクルと深く結びついており、飲酒問題を論じる際には、飲んだことがあるかないかを基準にしても、さほど意味がなく、機会、頻度、量等の質的要因を考慮する必要があることが示唆された。

④ **喫煙の生涯経験率**は、男性で76.4%、女性で25.1%、全体で49.3%であった。1995年5)、1997年6)の本調査に比べると、男性での喫煙者の減少傾向と女性での横這い傾向が示唆された。

初めての喫煙年齢は、18歳前に、男子では47%、女子では40%、全体では45%の者が喫煙経験を持つようになっていた。

一日の喫煙本数が11～20本と21本以上の者の割合を年代別にみると、男性では、11～20本／日の者の割合が、20歳代以降、明らかに低下して行くが、その反面、21本以上／日の者の割合が年代と共に明らかに上昇し、40歳代でピーク（26.7%）となっていた。女性では、20歳代で11～20本／日喫煙する者の割合が突出して高く（14.8%）、21本以上／日の割合は、男性同様に40歳代にピーク（3.0%）があるが、割合自体は相対的に低かった。

その他、禁煙経験等の調査より、喫煙者と言えども、喫煙の健康に及ぼす影響を心配し、禁煙願望がそれなりにあることが示唆された。

⑤ **家庭の常備薬**としては、①風邪薬、胃腸薬、②湿布薬、③鎮痛薬、ビタミン剤、④抗生物質、精神安定薬、睡眠薬と頻度的に多かった。

常用（週4回以上）している医薬品としては、男女共にビタミン剤が多く、その次に胃腸薬であり、その他は非常に割合が少なかった。

⑥ **鎮痛薬の使用頻度**では、「1年間で数回」使用した者が男性で26.1%、女性で31.7%、全体で29.1%と最も多かった。**1年間での鎮痛薬の使用経験者**率は、男性で35.4%、女性で52.4%、全体で44.4%

		ない	1年間より前にあった	1年間にあった	無回答＆回答非該当	合計
シンナー	男性	1649 (92.5)	62 (3.5)	2 (.1)	70 (3.9)	1783 (100.0)
	女性	1875 (93.7)	34 (1.7)	— —	93 (4.6)	2002 (100.0)
	全体	3527 (93.1)	96 (2.5)	2 (.1)	163 (4.3)	3788 (100.0)
大麻	男性	1672 (93.8)	36 (2.0)	3 (.2)	73 (4.1)	1783 (100.0)
	女性	1878 (93.8)	16 (.8)	— —	108 (5.4)	2002 (100.0)
	全体	3552 (93.8)	53 (1.4)	3 (.2)	181 (4.8)	3788 (100.0)
覚せい剤	男性	1709 (95.8)	19 (1.1)	2 (.1)	53 (3.0)	1783 (100.0)
	女性	1912 (95.5)	9 (.4)	1 (.0)	81 (4.0)	2002 (100.0)
	全体	3624 (95.7)	28 (.7)	3 (.1)	134 (3.5)	3788 (100.0)
ヘロイン	男性	1668 (93.6)	5 (.3)	1 (.1)	109 (6.1)	1783 (100.0)
	女性	1814 (90.6)	1 (.0)	— —	187 (9.3)	2002 (100.0)
	全体	3485 (92.0)	6 (.2)	1 (.0)	296 (7.8)	3788 (100.0)
コカイン	男性	1681 (94.3)	10 (.6)	1 (.1)	91 (5.1)	1783 (100.0)
	女性	1837 (91.8)	3 (.1)	— —	162 (8.1)	2002 (100.0)
	全体	3521 (93.0)	13 (.3)	1 (.0)	253 (6.7)	3788 (100.0)
ＬＳＤ	男性	1400 (78.5)	8 (.4)	2 (.1)	373 (20.9)	1783 (100.0)
	女性	1349 (67.4)	2 (.1)	— —	651 (32.5)	2002 (100.0)
	全体	2751 (72.6)	10 (.3)	2 (.1)	1025 (27.1)	3788 (100.0)

表106　違法性薬物への誘われ経験

		ない	1年間より前にあった	1年間にあった	無回答＆回答非該当	合計
シンナー	男性	1677 (94.1)	36 (2.0)	2 (.1)	68 (3.8)	1783 (100.0)
	女性	1894 (94.6)	19 (.9)	— —	89 (4.4)	2002 (100.0)
	全体	3574 (94.4)	55 (1.5)	2 (.1)	157 (4.1)	3788 (100.0)
大麻	男性	1688 (94.7)	22 (1.2)	2 (.1)	72 (4.0)	1783 (100.0)
	女性	1886 (94.2)	9 (.4)	— —	107 (5.3)	2002 (100.0)
	全体	3577 (94.4)	31 (.8)	2 (.1)	179 (4.7)	3788 (100.0)
覚せい剤	男性	1721 (96.5)	9 (.5)	2 (.1)	52 (2.9)	1783 (100.0)
	女性	1921 (96.0)	3 (.1)	1 (.0)	77 (3.8)	2002 (100.0)
	全体	3645 (96.2)	12 (.3)	3 (.1)	129 (3.4)	3788 (100.0)
ヘロイン	男性	1671 (93.7)	2 (.1)	1 (.1)	109 (6.1)	1783 (100.0)
	女性	1809 (90.4)	— —	— —	193 (9.6)	2002 (100.0)
	全体	3483 (91.9)	2 (.1)	1 (.0)	302 (8.0)	3788 (100.0)
コカイン	男性	1685 (94.5)	4 (.2)	1 (.1)	93 (5.2)	1783 (100.0)
	女性	1835 (91.7)	1 (.0)	— —	166 (8.3)	2002 (100.0)
	全体	3523 (93.0)	5 (.1)	1 (.0)	259 (6.8)	3788 (100.0)
ＬＳＤ	男性	1421 (79.7)	3 (.2)	2 (.1)	358 (20.1)	1783 (100.0)
	女性	1355 (67.7)	— —	— —	647 (32.3)	2002 (100.0)
	全体	2778 (73.3)	3 (.1)	2 (.1)	1006 (26.6)	3788 (100.0)

表107　違法性薬物の使用経験

であった。

常用的使用者（「週に3～6回」ないしは「ほとんど毎日」使用した者）は、男性では1.6%、女性では1.7%、全体では1.6%であった。

⑦ **精神安定薬の使用頻度**では、男性では「ほとんど毎日」使用した者が2.0%と最も多く、次に「1年間で数回」使用した者が1.6%と多かった。女性では逆に「1年間で数回」使用した者が3.6%と最も多く、次に「ほとんど毎日」使用した者が1.7%と多かった。**1年間での精神安定薬の使用経験者率**は、男性で5.7%、女性で8.5%、全体で7.2%であった。

常用的使用者は、男性では2.3%、女性では2.8%、全体では2.6%であった。

⑧ **睡眠薬の使用頻度**では、男女ともに、「1年間で数回」使用した者が、それぞれ2.0%、3.3%、全体で2.7%と最も多かった。**1年間での睡眠薬の使用経験者率**は、男性で4.9%、女性で6.5%、全体で5.8%であった。

常用的使用者は、男性で1.8%、女性で1.2%、全体で1.5%であった。

⑨ 以上の結果を1995年調査5)、1997年調査6)の結果と比較すると、鎮痛薬の1年間での使用経験者率がかなり増加したが、精神安定薬と睡眠薬では微増であった。

また、常用的使用者率及び入手先、使用目的等から判断し、精神安定薬、睡眠薬の社会的管理はそれなりに良好と考えられた。

⑩ **鎮痛薬、精神安定薬、睡眠薬を使うことへの心情・実情**では、鎮痛薬では、使う群（「心配せず使う」＋「心配だが使う」）が、男性では48.1%、女性では57.7%、全体では47.9%と、使わない群（「心配だから使わない」＋「とにかく使わない」）の37.3%、40.5%、39.0%より多かった。しかし、精神安定薬では、使わない群が、男性で62.1%、女性で68.8%、全体で65.7%に対して、使う群がそれぞれ20.3%、15.3%、17.7%であり、睡眠薬では、使わない群がそれぞれ、64.3%、69.7%、67.2%で、使う群がそれぞれ17.4%、12.7%、14.9%と、使わない群が多かった。

⑪ **違法性薬物名の周知度**では、有機溶剤に関しては、「シンナー」というと男女共に90%弱の者が周知しているが、「有機溶剤」というと、年代に関係なく約20%前後の者しか周知しておらず、トルエンを主流とする「シンナーあそび」の最頻年代である15～19歳では、17.2%の者しか「トルエン」を周知していなかった。

大麻に関しては、「大麻」という用語は男女共に約90%前後の者に知られているが、「マリファナ」は男女共に約80%強に減少し、「ハシッシ」（大麻樹脂）に至っては、男性で18.7%、女性で9.6%、全体で13.9%の者しか周知していなかった。

また、覚せい剤については、「覚せい剤」自体は男女共に約90%弱の者が周知していたが、「スピード」となると、周知者は男性で33.4%、女性で29.4%、全体で31.3%に低下し、「エス」では、それぞれ、さらに12.1%, 10.6%, 11.3%と激減していた。

第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つには、かつて「シャブ」と言われた覚せい剤を「スピード」「エス」と称して、若者がファッショナブル感覚で使用するという面がある。「スピード」や「エス」の周知者率は15～19歳と20歳代に比較的高かったが、違法性薬物の入手が比較的容易になった今日では、俗称もそれなりに心得ておく必要がある。

⑫ **違法性薬物乱用への生涯誘惑率**（これまでに誘われたことのある率）では、有機溶剤（2.6%）、大麻（1.5%）、覚せい剤（0.8%）、コカイン（0.4%）、、LSD（0.3%）ヘロイン（0.2%）の順で高かった。

この生涯誘惑率を年代別に見ると、有機溶剤では、20歳代が8.2%と高かった。大麻乱用では30歳代で最も高く（4.5%）、覚せい剤でも30歳代で最も高かった（2.0%）。

これらを、何らかの違法薬物の乱用への生涯誘惑率と言う見方で、年代別に見ると、30歳代男性（13.7%）、20歳代男女（男：11.9%、女：10.2%）での生涯誘惑率が突出しており、年代的には20歳代が最高（10.2%）であることは憂慮すべきことと思われた。

⑬ **違法薬物の生涯経験率**（これまでに乱用したことのある者の率）では、有機溶剤（1.5%）、大麻（0.8%）、覚せい剤（0.4%）、コカイン（0.2%）、LSD（0.1%）、ヘロイン（0.1%）の順で高かった。特に大麻乱用者は有機溶剤・覚せい剤乱用者に比べて検挙されにくく8)、精神障害も比較上起こしにくく、乱用・依存の広がりの程度を捕捉しにくいという特徴があり1)、現実の大麻乱用の広がりは予想以上の可能性がある。今後のわが国の薬物乱用状況に影響しかねない問題である。

何らかの違法性薬物の生涯経験率という見方を